

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																			
東北電子専門学校		昭和51年3月31日		吉田 博志		〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501																																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																			
学校法人日本コンピュータ学園		昭和61年10月22日		持丸 寛一郎		〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501																																			
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																																			
工業	工業専門課程	システムエンジニア科			平成19年文部科学省 告示第21号	-																																			
学科の目的	情報システム、特に大規模なシステムの構築に関する、設計・開発・テストのスキルを身に付けた人材を育成する																																								
認定年月日	平成27年2月25日																																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	単位時間																																	
	3年 昼間									3192時間	2679時間	28.5時間	1197時間	0時間	0時間																										
生徒総数	生徒総数	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																				
120人	98人	0人	3人	2人	5人																																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・レポート及び授業に取り組む姿勢をもとに評価																																				
長期休み	■学年始:4月1日～4月6日 ■夏季:7月24日～8月23日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級 条件	年間800時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。																																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 成績不振、長期欠席等の生徒に対し、担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問や保護者を交えた面談			課外活動	■課外活動の種類 卒業制作展、仙台まち美化サポーター、スポーツ大会、等 ■サークル活動: 有																																				
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 東北インフォメーション・システムズ株式会社、サイバーコム株式会社、株式会社アテネコンピュータシステム			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に係る平成30年5月1日時点の情報)																																				
	■就職指導内容 担任と就職センター専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシート書き方講座」「面接対策講座」等のセミナーや講座を実施				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>②</td> <td>8人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>27人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>8人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>情報処理安全確保支援士試験</td> <td>②</td> <td>5人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>Oracle認定Javaプログラマー、Bronze SE 7/8</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 基礎コース試験</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 2級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート試験	②	8人	4人	基本情報技術者試験	②	27人	8人	応用情報技術者試験	②	8人	5人	情報処理安全確保支援士試験	②	5人	2人	Oracle認定Javaプログラマー、Bronze SE 7/8	③	3人	3人	SEA/J 基礎コース試験	③	21人	9人	Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	13人	8人
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																																				
	ITパスポート試験	②	8人		4人																																				
基本情報技術者試験	②	27人	8人																																						
応用情報技術者試験	②	8人	5人																																						
情報処理安全確保支援士試験	②	5人	2人																																						
Oracle認定Javaプログラマー、Bronze SE 7/8	③	3人	3人																																						
SEA/J 基礎コース試験	③	21人	9人																																						
Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	13人	8人																																						
■卒業者数 : 27 人 ■就職希望者数 : 23 人 ■就職者数 : 23 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 85.2 %			<p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>																																						
■その他 ・進学者数:0人			■自由記述欄																																						
(平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日 時点の情報)																																									
中途退学の 現状	■中途退学者 10 名		■中退率 10.1 %		平成29年4月1日時点において、在学者99名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者89名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学業不振、進路変更、家庭の事情、病気 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルズ講座																																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特別奨学金制度、試験特待生制度、資格特待生制度、親族入学優遇制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																																								
当該学科の ホームページ URL	http://www.jc-21.ac.jp/course/ib/se/																																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 本科の教育課程の編成においては、システム開発について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会(IT分野)」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。
 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本科では、次の過程を経て教育課程を編成、決定する。

1. 本科教員により、次年度教育課程について検討、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会(IT分野)」(年に2回以上開催)において、現行教育課程及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、次年度教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、次年度教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
中嶋 巖	一般社団法人宮城県情報サービス産業協会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
鈴木 利信	株式会社アテネコンピュータシステム	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
原田 篤	株式会社ビッツ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
淡路 義和	株式会社コー・ワークス	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
種田 裕一	東北電子専門学校 教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
星 孝	東北電子専門学校 教務課長(委員長)	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
吉澤 毅	東北電子専門学校 教務課長(副委員長)	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
佐藤 一	東北電子専門学校 教務主任	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数:年2回開催 開催時期:毎年9月及び1月

(開催日時)

第1回 平成29年12月11日 17:00～18:26

第2回 平成30年2月26日 17:00～18:10

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成27年度の教育課程編成委員会で、データベースに関連するシステム開発を進めていく中で、実行中のデータを確認したり、処理結果をビジュアルとしてとらえやすくすることを意識するために、BIツールなどを積極的に活用してはどうかとの意見があった。この意見について、以下のように教育課程に反映した。

平成28年度より、企業内でのデータ分析や、データ分析ツールの利用方法などを、「システム開発Ⅲ」の科目の中で行った。平成29年度より、より積極的にツールの利用を行う事と、ほかの科目との連携を密にすることを目的に、新しく「リッチクライアント」という科目として独立した。具体的には、①「出力結果のビジュアライゼーションを行うツール(Microsoft PowerBI)」と、「スマートフォンやPCで簡単にデータベースを扱える開発環境(Filemaker)」の使い方②システムの一部でこれらのツールを導入する方法・データ分析事例とデータ活用方法を学習する。さらに、システム開発Ⅲや卒業研究など、データベースを利用する科目の、システム開発工程の中でこれらのツールの活用を行っていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な能力を育成するために、企業等と組織的な連携を取った実習が重要と考えている。連携するにあたっては、知識・技術の学修に加えて、実務を遂行するに必要なヒューマンスキルや仕事に対する意識・姿勢への「気づき」を得ることも重視する。
また、企業の選定にあたっては、実践的なアドバイスを受けて必要なスキルが修得できるように、情報システムに関する経験豊富な企業、特に、大規模システムの開発経験が豊富で、本校の卒業生が在籍し活躍していることを要件とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

株式会社東北システムズサポート、株式会社コー・ワークスと取り交わした「職業教育協定書」(以下、協定書)に基づいて「データベース管理」「プログラミング言語Ⅱ」「システム開発Ⅱ」の授業科目を連携して実施している。具体的には、協定書別紙に記載している以下の内容を企業と連携し実施する。

株式会社東北システムズサポートには、システムエンジニア・プログラマーとしてIT業界に必要なスキルを理解すること、システム開発における全体像を把握すること、要求される仕様に基づいた情報システムを構築することを目的に実践的な演習を依頼する。

株式会社コー・ワークスには、実践的な難易度の高い仕様に基づいた情報システムを構築すること、その中でデータベースやWebシステムを構築する作業を実践することを中心としてプロジェクト全体の流れを経験できる演習を依頼する。

科目担当教員と両企業の講師がそれぞれ事前に打ち合わせを行い、連携実習開始時点までの学習内容を説明後、実習内容、実習成果物に対する評価基準などについて定める。実習中は、企業の講師がプロジェクトメンバーとしての心得、求められるスキルなどを理解させ、生徒の取り組むプロジェクトの目標、開発手順などを指示し、個人またはチームで実習を行う。実習最終日にはプロジェクト成果物を提出させ、講師が成果の評価を行う。

その後の授業においては、科目担当教員がプロジェクト管理についての補足や、プロジェクト成果物の改良に向けたサポートを行う。期末には、両企業の講師の評価を踏まえ、担当教員が総合的に成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
データベース管理	各種データベースでの操作を体験し、データベースの管理者に必要な管理技法を学びます。また、データベースに関連するシステム開発について学びます。	株式会社コー・ワークス
システム開発Ⅱ	ITシステム構築の設計について学習します。ドキュメント作成、レビュー、データ整合性確認など実際のシステム設計と同様の手順で実践的な演習を行います。	株式会社コー・ワークス
プログラミング言語Ⅱ	ソフトウェア開発技術者に必要な管理技術・プログラミング手法、成果物の作成など、ソフトウェア開発全般において、実践的な実習・演習を行います。	株式会社東北システムズサポート

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校は、教員に対する研修の必要性を把握し、その必要性に応じて研修計画を策定し、計画に基づいて研修を実施する。その内容として、専攻分野の実務に関する知識や技術及び授業や生徒に対する指導力等を修得させ、教員の能力及び資質等の向上を図る。必要な場合は、他の機関や企業等と共同して又は外部の機関に委託して研修を行うことがある。

これらについては、「学校法人日本コンピュータ学園 教員研修規定」に定めており、この規定に基づいて研修を実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

「Xamarin」によるハイブリッド開発の研修

内容: Windows Visual Studio上のスマートフォンアプリ(iOS・android)の開発環境であるXamarinの活用方法を修得した。

連携: 教育課程編成委員会で、近年のスマートフォンアプリはハイブリッド開発が中心となっており、ネイティブアプリとWebアプリの特性を組合せ、またマルチプラットフォームで動作できるよう作成しているというコメントがあった。このハイブリッド開発を修得し、授業に取り入れることを目的とした研修をIT分野3学科で企画し、教育課程編成委員会の外部委員からの推薦があり、株式会社ナチュラルに依頼して実施した。

対象: 学科教員

日時: 平成30年3月29日 9:00~17:00

企業連携: 株式会社 ナチュラル

② 指導力の修得・向上のための研修等

「アクティブラーニング」に関する研修

内容: 「アクティブラーニング」本来の目的(学び合いや教え合いによる課題解決)について理解し、学生が能動的学修を行えるよう指導できることを到達点として行う研修を実施した。

連携: 一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会から「能動的に振る舞うことのできる技術者が求められている」との助言にもとづき、東北電子専門学校が企画し全教員を対象として実施した研修。講師は協会から紹介していただいた、アクティブラーニングを専門とする大学の研究者である。

対象: 全教員

日時: 平成30年3月29日(木) 14:00~17:00

講師: 石巻専修大学 教授 山崎 泰央 氏

「コミュニケーション力向上」を目的とした中堅教職員研修

内容: 『「他者への理解」を考える』をテーマとし、自分の特性を理解し、それを他者との関わりに生かすことを例に、コミュニケーション力について講義+演習形式で学ぶ研修。

連携: 宮城県専修学校各種学校連合会等の企画・主催の中堅教職員に対する研修で、研修後は研修報告書を全教員に配布し授業で活用した。

対象: 指導年数6年及び11年の教員

日時: 平成29年12月13日(木) 13:30~16:30

講師: 仙台幼児保育専門学校 猪岡 久子 氏

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

「Power BIの活用」に関する研修

内容: ビッグデータというキーワードが注目される中、データの統計や分析をビジネスに活用するニーズが高まっている。一方で、本格的な分析ツールの利用は、コスト面やスキル面での敷居が高く、手が出しにくいのが、Power BIは、使い慣れた Excel をベースにしたサービスであるため身近にある様々なデータを簡単にまとめ、視覚化することを研修する。

連携: IT分野の教育課程編成委員会の中で、近年のITツールとしてBI(ビジネスインテリジェンス)が着目されているというコメントがあった。専門学校でデータサイエンティストを育成することは容易とは言えないが、データ分析エンジニアを育成できれば企業のニーズと一致するというアドバイスを頂き、まず担当教員がBIツールを活用する知識を身に付けることとなった。このBIのセミナーを担当しているMicrosoftのパートナー企業に依頼して研修を実施する。

対象: 学科教員

日時: 平成30年12月中旬 9:30~16:30

企業連携: 日本マイクロソフト株式会社のパートナー企業から選定予定

②指導力の修得・向上のための研修等

「学生と教員のための実践心理」に関する新任教員研修

内容： 学生・教員のための実践心理を中心として、専修学校における職業教育についても学ぶ研修。

連携： 宮城県専修学校各種学校連合会等の企画・主催の新任教員に対する研修で、受講後は全教員に対する研修報告会を実施する。

対象： 指導年数1年未満の教員

日時： 平成30年7月24日(火)～26日(木) 各 9:00～16:30

講師： 仙台幼児教育専門学校 臨床心理士 佐藤 葉子 氏
(有)インターサーブホスピタリティ 代表取締役 木島 隆司 氏
仙台白百合学園大学 教授 氏家 靖浩 氏
尚綱学院大学 准教授 池田 和浩 氏

「アクティブラーニング」に関する研修

内容： 前年度実施した「アクティブラーニング」研修の応用研修で、授業での活用を目的とした行動定着型の研修。

連携： 連携企業等から「自主性を育てる教育を期待する」「能動的に振る舞うことのできる技術者が求められている」との助言にもとづき、東北電子専門学校が企画し全教員を対象として実施する研修。

対象： 全教員

日時： 平成31年3月(予定)

講師： 未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び職業実践専門課程として推薦する学科(以下、「当該学科」という。)の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』(以下、「委員会」という。)を設置し、学校関係者評価を行うものとする。

委員会は、学校の重点目標、計画、自己評価等について評価し、特に当該学科については、その教育目標、育成人材像、教育課程の編成、キャリア教育、資格取得の指導体制等について重点的に評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめ、広く公表する。

学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の継続的な改善を行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目的	a. 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) b. 学校における職業教育の特色を示しているか c. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか d. 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか e. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	a. 目的等に沿った運営方針が策定されているか b. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか c. 運営組織や意志決定機能は、明確化され、有効に機能しているか d. 人事、給与に関する制度は整備されているか e. 各部門の組織整備など意志決定システムは整備されているか f. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか g. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか h. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> a. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか b. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか c. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか e. 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか f. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか g. 企業や専門家の意見、評価を受け、より実践的な能力を修得する機会が整備されているか h. 授業評価の実施・評価体制はあるか i. 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか j. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか k. 必要な場合は業界と連携して、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか l. 関連分野における先端的な知識・技能等の修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか m. 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> a. 就職率の向上が図られているか b. 資格取得率の向上が図られているか c. 退学率の低減が図られているか d. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか e. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> a. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか b. 学生相談に関する体制は整備されているか c. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか d. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか e. 課外活動に対する支援体制は整備されているか f. 学生の生活環境への支援は行われているか g. 保護者と適切に連携しているか h. 卒業生への支援体制はあるか i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか j. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> a. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか b. 学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか c. 学生が自主的に学修するための環境が整備されているか d. 防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> a. 学生募集活動は、適正に行われているか b. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか c. 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> a. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか b. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか c. 財務について会計監査が適正に行われているか d. 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> a. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか b. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか c. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか d. 自己評価結果を公開しているか

(10)社会貢献・地域貢献	a. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか b. 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか c. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	a. 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか b. 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか c. 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか d. 学内で適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価の結果をもとに、以下の点について今後の教育活動及び学校運営の改善に活用している。

- ① 委員より「企業連携実習は重要なので、今後もさらに充実した連携活動を行っていただきたい」との意見を受け、各学科において企業連携実習時間数を増やす対応を行った結果、平成29年度は前年度比55%増(全学科平均)となり、最新の技術をより実践的に学ぶ環境が整備できた。
- ② 委員より「学内各業務の効率化のため情報システムの見直し等、必要に応じた改良を期待する」との意見を受け、現行の学校業務システムから、より多機能、高機能なシステムへのリプレース及び、単純作業の自動化のためRPAを今年度中に導入するための準備を行っている。
- ③ 委員より「資格取得については、今後、さらに合格率や取得率向上のため、より良い対応策について検討を期待する」との意見を受け、情報処理技術者試験については、試験対策のクラス編成やスケジュール等を変更し合格率向上を実現できるよう体制を整えた。しかし、自ら学ぶ姿勢が感じられない生徒に対して、これまでのような詰込み教育を行っても効果は期待できず、学習に対する拒否反応を起こしかねないことから、生徒の能動的な学びを醸成するために、授業ではアクティブラーニング手法の導入に取り組んでいる。なお、「アクティブラーニング研修」を、指導力の修得・向上のための研修として、専任教員全員及び非常勤講師の希望者に対し実施した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
笠松 博	宮城県産業技術総合センター	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員
川島 健太郎	株式会社ヒノタマ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業等委員
菊田 正信	東北管理株式会社(卒業生)	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生
中居 浩二	一般社団法人宮城県建築士事務所協会	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	業界団体
佐藤 浩之	株式会社アルゴグラフィックス	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 富士夫	宮城県電気工事工業組合	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	業界団体
後藤 吉郎	株式会社ミヤギテレビサービス	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
庄司 直人	株式会社リード・サイン	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
関口 靖志	株式会社ヤマハミュージックリテイリング	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
角田 透	株式会社JC-21教育センター	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業等委員
守 克明	リコージャパン株式会社	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
伊藤 啓一	株式会社舞台ファーム	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
西村 宜起	東北芸術工科大学	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	有識者
早川 智子	株式会社メンバーズ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法:ホームページで公開 URL: <http://www.jc-21.ac.jp/report/hyoka/>

公表時期:毎年9月14日に更新

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、学校教育法、私立学校法で定められた目的を実現するための教育機関として、教育活動の活性化や学校運営の円滑化を図るとともに、企業等との繋がりを強め、連携推進に資するために情報公開を行う。
 提供する情報は、学生及び保護者、入学希望者、企業関係者等に対して、学校の教育目標・教育活動の実績・キャリア教育等の教育基礎情報を始め、学校評価等の学校全体の状況に関することとする。
 なお、提供に当たっては、個人情報の取扱いに留意するとともに公正な情報の表示に努めるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	設置者名、学校名、所在地、連絡先、理事長名、校長名、教職員数、学生数、教育理念、事業計画、学校の特色、沿革
(2) 各学科等の教育	修業年限、募集定員、学科案内(学科の特色、取得を目指す資格、職種、学びのステップ)、カリキュラム、入学者数、資格取得実績、卒業者の進路
(3) 教職員	教職員数、教員組織・担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職指導、就職支援プログラム、各種連携・連携教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動、教育施設・設備(校舎概要、主な施設・設備の特色、主な実習設備、その他施設・設備)
(6) 学生の生活支援	学生支援体制、学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	初年度学費一覧、入学手続き金の分割納入について、授業料等の分割納入について、学費サポート制度(特別奨学金制度、試験特待生制度、資格特待生制度、親族入学優遇制度、日本学生支援機構奨学金、国の教育ローン、新聞奨学生制度、教育ローン)
(8) 学校の財務	財務情報(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)
(9) 学校評価	学校評価、自己評価、学校関係者評価、職業実践専門課程の基本情報
(10) 国際連携の状況	留学生対象学科:国際ビジネス科の特徴、取得を目指す資格
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物、卒業制作展等学校・学科が主催するイベントで情報提供

<http://www.jc-21.ac.jp/report/>

授業科目等の概要

(工業専門課程システムエンジニア科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策 I	一般常識や適性試験対策を中心に学習します。就活時必要となるエントリーシートや履歴書は、自己分析により適職を知ったうえ書き方を学びます。また会社訪問のしかたや面接はビジュアル教材を使い、実践トレーニングを行います。	1通	57		○			○		○		
○			ハードウェア概論	コンピュータの動作原理やデータ表現・情報の基礎理論・ハードウェアの基礎理論・インタフェース・技術動向などを学びます。	1通	171		○			○		○		
○			ネットワーク技術基礎	ネットワークの役割や基礎知識、ローカルエリアネットワーク・通信規約・通信機器・IoTの基礎知識・セキュリティの基礎知識・関連法規などを学びます。	1通	85.5		○			○		○		
○			データベース技術基礎	データベースの基礎理論やデータベース管理システムの役割・障害対策・SQL・AIとビッグデータの関連などの基礎知識を学びます。	1通	85.5		○			○		○		
○			アルゴリズム	プログラムの処理手順を表現する流れ図の書き方を学び、論理的思考能力やトレース能力の向上を図ります。基本情報技術者試験で出題される擬似言語やデータ構造についても学びます。	1通	114		○			○		○		
○			プログラミング言語 I	基本情報技術者試験対策としてプログラミング言語を学び基本的なアルゴリズムがどのように実装されるかを学習します。	1通	143		○		△	○		○		
○			システム開発概論	システム開発の工程や各工程での作業内容、システム開発技法、各種設計書（ドキュメント）、テスト技法に関する基礎知識と、OSの機能概要やソフトウェアに関する基礎知識を学びます。	1通	143		○			○		○		
○			情報化の基礎	経営戦略・企業関連法規・経営科学・プロジェクトマネジメント・システム監査など、企業活動に必要な基礎知識を幅広く学びます。	1通	114		○			○		○		
○			情報リテラシー	パソコンの基本操作からOfficeソフトの活用方法、ネット社会におけるモラルやセキュリティについて学びます。	1前	57		○			○		○		
○			オブジェクト指向技術	オブジェクト指向設計の概念とJava言語の基本を学びます。	1後	114		△		○	○		○		
○			システム開発 I	モデルケースを基に、システム開発の流れを簡単に体験します。	1後	57		○		△	○		○		

○		就職対策Ⅱ	一般常識や適性試験対策学習を継続しながら、エントリーシートや履歴書を完成させ、就職活動の準備を整えます。	2通	57		○		○	○				
○		Linux I	Linuxの一般ユーザレベルの設定方法を学びます。	2前	85.5		○	△	○				○	
○		OS概論	Windowsを中心にオペレーティングシステムの基礎を学びます。	2前	85.5		○		○			○		
○		SQL	オラクルデータベースを使って、データベースシステムの実装技術の基本を学びます。ORACLE MASTER Bronzeの試験範囲をカバーします。	2通	171		△		○	○		○		
○		プログラミング言語Ⅱ	Java言語でのプログラミングを学習し、Javaプログラミング能力認定試験、オラクル認定Java資格取得をめざします。	2通	285		○	△	○			○		○
○		情報セキュリティⅠ	SEA/Jアカデミーカリキュラムを使用し、セキュリティ基礎およびセキュリティマネジメントを学びます。	2前	85.5		○		○			○		
○		Web開発技術	Web上で動く情報システムの基本的な構築と、簡単なWebシステムについて学びます。	2後	85.5		△		○	○				○
○		UML	オブジェクト指向設計の概念と、標準化されたモデリング言語であるUMLを学びます。	2後	57		○	△	○			○		
○		システム開発Ⅱ	データベースの設計を行う上で必要な知識（データ型・制約など）を学習します。	2前	57		○	△	○			○		○
○		就職対策Ⅲ	受験企業の研究、時事問題対策、面接訓練など、より実践的な就職活動のトレーニングを行います。	3前	57		○		○			○		
○		プレゼンテーション	プレゼンテーションを学びます。また、PowerPointやVisioなど資料作成ツールの操作を学びます。	3前	57		△		○	○		○		
○		データベース管理	データベースの管理者に必要な管理技法を学び、各種データベースでの操作を体験します。また、データベースに関連するシステム開発について学びます。	3前	114		○	△	○			○		○
○		プログラミング言語Ⅲ	C#を使ったGUIプログラミングや、Java言語を使ったWebプログラミング・IoTプログラミングなどを学びます。	3通	171		△		○	○		○		
○		システム開発Ⅲ	実在する企業システムをモデルに、業務システムの分析から設計、開発、テストまで一通りの開発を行います。	3通	171		△		○	○		○		
○		リッチクライアント	自分で構築したデータベースを基に、集計・分析を行うツールの使い方について学習します。IoTデータを活用した分析システムの開発も体験します。	3通	57		△		○	○		○		

○		卒業研究	総合実習として、学んできた言語・開発技法・ツールを活用し、グループでのアプリケーションを作成します。	3通	285		△		○	○	○							
	○	情報セキュリティマネジメント試験対策Ⅱ	対策クラスを編成し、基本情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2後	57		○			○	○							
	○	基本情報技術者試験対策Ⅱ	対策クラスを編成し、基本情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2後	57		○			○	○							
	○	応用情報技術者試験対策Ⅱ	対策クラスを編成し、応用情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2後	57		○			○	○							
	○	高度情報技術者試験対策Ⅱ	対策クラスを試験区分ごとに編成し、高度情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2後	57		○			○	○							
	○	情報セキュリティマネジメント試験対策ⅢA	対策クラスを編成し、基本情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3前	57		○			○	○							
	○	基本情報技術者試験対策ⅢA	対策クラスを編成し、基本情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3前	57		○			○	○							
	○	応用情報技術者試験対策ⅢA	対策クラスを編成し、応用情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3前	57		○			○	○							
	○	高度情報技術者試験対策ⅢA	対策クラスを試験区分ごとに編成し、高度情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3前	57		○			○	○							
	○	情報セキュリティマネジメント試験対策ⅢB	対策クラスを編成し、基本情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3後	57		○			○	○							
	○	基本情報技術者試験対策ⅢB	対策クラスを編成し、基本情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3後	57		○			○	○							
	○	応用情報技術者試験対策ⅢB	対策クラスを編成し、応用情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3後	57		○			○	○							
	○	高度情報技術者試験対策ⅢB	対策クラスを試験区分ごとに編成し、高度情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3後	57		○			○	○							
	○	ボランティア活動	校内外におけるボランティア活動を行います。	1後 2後 3後	28.5		△		○	△	○	○						

		○ CGアプリケーション入門	3次元CGの初歩的な制作方法を学びます。	1後 2後 3後	28.5		△		○	○		○		
		○ 英会話基礎	日常英会話の基礎を学びます。	1後 2後 3後	28.5		○			○			○	
		○ コミュニケーションスキル講座	円滑な対人関係、組織の活性化、および、良いコミュニケーションに必要な「話す」「聞く」といった知識と能力を身に着ける。	1後 2後 3後	28.5		△		○	○				○
		○ 就職作文対策	就職試験で出題されることが多い作文について、基礎的な書き方やコツなどを学びます。	1後 2後 3後	28.5				○		○			○
		○ 経営とビジネス	技術者にも必要な会社における会計の基本と経営との関係について学びます。	1後 2後 3後	28.5		○				○			○
		○ 実践カラーコーディネート	配色調和、色彩心理などカラーコーディネートの知識を基に、対象別の実践的配色技法を習得します。	1後 2後 3後	28.5		○		△	○				○
合計			30 科目						3192	単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
年間800時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	19週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。